

「鳥取市政懇話会」

平成 20 年度第 1 回人口が増加していく住み良いまちづくり部会

会 議 要 旨

日時：平成 20 年 5 月 19 日（月）

午後 1 時 30 分～3 時 20 分

場所：鳥取市役所本庁舎

4 階第 3 会議室

【委員】石谷雅文委員、太田義教委員、下石義忠委員、浜田あけみ委員、久本憲明委員、溝口由美委員、三谷信子委員

【鳥取市】木下福祉保健部長、林健康子育て参事監

1. 開 会

2. 部会長あいさつ

本日の部会では、まず、全体会での中間報告に向けて部会で出た意見を再確認し、まとめ、その後、本日のサブテーマである「健康で長生き」について意見交換をしたい。

本部会では、「人口が増加していく住みよいまちづくり」をテーマとし、これまでサブテーマを設定して意見交換をしてきたところ。1 回目は、「定住促進」特に若者定住、2 回目は「住みやすい、育てやすい環境整備」をサブテーマとし、議論いただいた。今日は「健康で長生き」について議論いただきたい。

3. 意見交換

（委員）

まず、1 番目のテーマについて、本市の施策、他市の事例を踏まえて本会で議論してきたところ。人口が増加していく住みよいまちというテーマはほとんどの自治体が取り組んでいるテーマである。

今までどういう議論をしてきたかという点を議事録を元にとりまとめたので、追加等あれば、ご意見をいただきたい。

人口減少社会の中で、20 万人をキープできれば相当なもの。その場合のキーワードは働く場所の確保がどのようにできるのかということ。第 1 部会の地域経済の活性化との関係も深い。

主な意見としては、

①道路や下水道などのインフラ整備も重要だが、収入源（就業の場）の確保が絶対必要。

②新規の卒業生をいかにとどまらせるか。いったん県外で就職してからの U ターンは困

難

③子供を都会に出している親としては、帰ってきてほしいものだが、働く場の確保が必要という意見をいただいた。

では、雇用の場の創出策はどのようになされているのか。ということに関して、

○大企業のサテライト営業所などの地方展開の推進に期待。

○ITを活用した在宅勤務者への支援。

○Iターンの代表例は、鳥大・環境大の先生方。鳥取の売りである環境・食・農・医療福祉などの分野で産・学・官・金の4者連携して研究開発センターなど設立できないか。

その他の意見としては、

○家を守る「跡取り」を、家族ぐるみ・地域ぐるみで残すという風潮の醸成。

●他者に対し閉鎖的な土地柄の解消なくしてIターン者等の定住は難しい。

○市の外郭団体のポストに、Uターン者用の特別枠を設けられないか。

○団塊の世代を対象にした高齢者専用賃貸マンションの建設

などがあった。

2番目の「住みやすい育てやすい環境整備」については、「住みやすい環境」と「育てやすい環境」に分けて議論いただいた。

住みやすい環境について、皆さんがどのように「鳥取市」評価しているのかというと、

○豊かな自然環境・安全安心・充実した医療福祉・新鮮で豊富な食材・物価安など鳥取は住みやすいまちである。

●足りないのは、雇用の場・特に中山間地の公共交通手段・高齢者最寄りの商業施設・中心市街地のにぎわい・地域住民同士の助け合い(共助)

○移動手段としての自転車の活用(要所要所に駐輪場を設置し、公共財とし乗り捨て自由にするなど)

○パーク&ライドを徹底させ、中心市街地を歩行者と自転車の行き交う街に。

また、育てやすい環境ということについては、

○待機児童ゼロ・学童保育の普及など、個人に対する支援システムは充実している。

●育児休業はもとより産前産後休暇自体取りづらい中小零細企業が鳥取には多い。そういう企業に対し積極的な支援策が必要。

という内容でまとめさせていただいたが、補足等いただきたい。

我々の部会のテーマは、鳥取市においても様々な施策を展開されており、本部会で新しい切り口で提案できるかということ、なかなか難しいところであるが。

(委員)

例えば、医療関係者など、Uターンの見込みのある方のデータを充実し、アクションを

起こしていく必要があるのではないか。

現状として県外におられる人が何を求めているのかというニーズ把握も必要。

(委員)

漠然と団塊の世代のU J I ターンに期待するだけでなく、就業の場の情報提供なども個別にしていく必要があるのではないかというご意見。

(委員)

海外に進出している企業なども含め、企業誘致の効果は大きいのではないか。

(委員)

企業誘致、特に大きな企業の誘致はなかなか難しい。

ここで、ひとことずついただきたい。

(委員)

耕作放棄地が増えてきている。雇用の場の創出まではいかないかもしれないが、定住対策と関連付けできないものか。

(委員)

鳥取市は農業市であり、もう少し、農業で収入が確保できればよいのだが。

(委員)

鳥取は農業自給率が他県より高いと聞いている。農業自給率の高さを「売り」にできるのでは。

(委員)

企業誘致の話が出たが、木材が半分ほどしか売れなくなった。

公共事業が急に4割も5割も急に減っていくと、企業は立ち行かなくなる。企業を誘致して従業員を確保する一方で、既存の企業がリストラをするようでは、同じこと。市や県は、公共事業を減らすにあたっては、徐々に減らすとか、もう少し今ある企業が存続できるような取り組みを望む。

一戸建てに住むと、年齢が大きくなるにつれ、雪かき、庭の世話などが負担になる。二世帯住宅などで若い世代と年寄り、孫世代と一緒に暮らせるような施策をしてもらえればよいと思う。

(委員)

つくば市は、学園都市として大学、研究施設が集まっている。そういった研究所があることで、企業もやってきている。工業団地もでき、雇用の創出にもつながっている。

交通アクセスについても、施設等が多数あることを背景に整備されている。鳥取もそのような取り組みができないか。

また、若い人たちは、地域のつながり、例えば自治会の加入などに対し、抵抗感がある。押し付けにならないように配慮が必要。

しかし、転勤族の方達に鳥取の良さを知ってもらうことにより、他の地域に引っ越された場合、鳥取の評判を広めてもらういい存在にもなる。この世代にいい印象をもってもら

うためのきめ細かな目配りも大切。

(委員)

産・官・学・金の4者連携を強めるべき。今あるものを生かしたり、新しいものを生み出したり核となる部分を官が率先して作り上げ、それに学問や産業が連携する循環ができれば良いと思う。

「学」(大学)の力を借りて、例えば、燃えにくい材木などの開発や、中山間地域の荒廃地の利用策を考えるのも良いのでは。

(委員)

このたびの皆さんの意見を踏まえて中間報告させていただきたい。

次に今日のテーマである「健康で長生き」できる社会について皆さんの意見を伺いたい。非常に身近なテーマであり、インターネットで検索すると今日現在で537万件ヒットする。

個人としての話もあるが、みんなで作っていくためにはどういうことが足りないのかという議論になる。

(委員)

みんな健康で長生きしていると思う。目標に達しているのでは。

(委員)

3点お願いしたい。

後期高齢者医療制度が始まった。医療保険制度の維持のため仕方の無い部分もあり、また、収入に応じた減免制度等、一見すると、セーフティーネットもできているように見えるが、生活保護も受けられず、わずかな年金から天引きされているお年よりもあると聞いている。財源の問題もあるが、市独自でさらなる負担軽減策がとれないものか。

また、健康診断について、現在全ての方が受けられる、また受けやすい状況にないように感じている。工夫をしていただきたい。

社会保険センターがなくなり、センターを拠点として行われてきた趣味やスポーツなどができなくなってきている状況の中で、市として何かできないものか。

(木下企画推進部長)

医療費33兆円のうち、19兆円が後期高齢者医療費である。今までは社会保険の扶養になっている高齢者の方は保険料の負担が無かったのに対し、国民健康保険の加入者は保険料を負担しているという不公平感を無くし、医療制度を維持するために始まった制度であり、制度自体は間違っていないと国も言っている。が、制度の周知、国民の理解が得られていないことが問題である。これについては、国においてもさらに見直し検討される模様。

社会保険センターの件については、様々な団体が入っておられ、活発に活用されていたと承知しているが、行政が取得して事業を進めることは困難。

(前根中央保健センター所長)

健康審査については、基本健康審査18年度実績18,331が合計であり、率にすると3割程度になる。

平成20年度から健診制度が変わり、健診該当者全員に通知がいくようになるので、受診率が上がるのではないかと考えている。

(委員)

日曜は受診可能か。

(前根中央保健センター所長)

日曜は受診いただけない。

現在、自身の都合にあわせて予約する個別健診と検診車による集団健診に分かれており、受診可能な医療機関が100ある。

(委員)

健診も日頃から自分の体調を熟知しているかかりつけ医にかかりたいもの。そうなると、自身の仕事のシフトや予約患者の状況などで、受診日が限られ、思い立ったときに受診できないことがある。

健診時間の融通がきけばもう少し受診率も向上するのではないか。

(委員)

健診を受けなかった方の原因分析も必要なのでは。

(市長)

医療・福祉に関しては充実してきたが、さらなる改善が必要。特に後期高齢者医療制度については、国民的議論がもう少し必要で、新聞報道では、また制度が変わろうとしているようであり、見極めたい。

また、健康づくりも重要であり、元気プランなどは、公民館での説明会、学校を通じてなど、広くPRしていく必要がある。

鳥取は環境に恵まれており、健康に対する意識をみんなが持って、気運を高めることも大切。「お笑い健康道場」の活用もお願いしたい。

(委員)

自分の時間の都合で時間を見つけて運動することも大切。健診も健康スケジュールを立てて行くなど工夫するべき。

(委員)

健康で長生きに関する情報は先ほども紹介したようにあふれている、重要なのはその情報の中で自分にあったものをいかに取り入れ習慣化していくかである。

(市長)

健康相談的な窓口もあってもいいと思う。

(委員)

それは、かかりつけ医の役目。お互い信頼関係のもてるかかりつけ医をもつことが大切。市民へPRし、自身で健康づくりを考えていく環境づくりが重要。

(委員)

福部のプールはインストラクターがいるのか。智頭のプールはつまずかないプールで運動させるとか、インストラクターが丁寧に教えてくれていると聞いている。福部のことも多くの皆さんが知ったらもっと行かれるのでは。

(委員)

鳥取の場合、手段はそろっているが、行かれない人がいる。健診も「受けない」と決めておられる人もいる。

(委員)

栄養指導の取り組みも必要では。栄養士の派遣とか、公民館活動での研修とか。

(市長)

保育所あたりでは栄養士を派遣しての食生活に関する栄養指導も考えられる。大人に対しては公民館を使って、あるいは健康づくりの面では、「お笑い健康道場」、「しゃんしゃん体操」なども普及していく必要がある。

市長退席

(委員)

では、本日の資料の説明を前根中央保健センター所長よりお願いしたい。

(前根中央保健センター所長)

まず、新元気プランについて説明させていただきたい。合併を期に各自自治体でばらばらだったものをまとめたもの。18年度から22年度までの5年間を計画期間としている。できるだけ数値目標も示してあり、検証できるようにしている。

また、策定にあたっては、「健康づくりを語る会」一般市民32人に参加いただき、専門機関の方にも参加いただき、ご意見をいただいた。

統計数字をもとに課題を明確にし、「子供が健やかに生まれ育つための子育て支援」「生涯にわたる心身の健康の保持」を2つの大きな柱とし、計画を策定。

「特に生涯にわたる心身の健康の保持」では、ふれあい、運動、食習慣、喫煙飲酒、歯の健康、疾病予防等5つをあげている。特に生活習慣病が増えているため、その予防と、心の健康、を中心にしている。

次に「けんこう鳥取」について説明させていただく。資料1として推進状況が記載されている。目標の分野別取り組み状況の中で、しゃんしゃん体操がふれてあり、ユニークな取り組みなので、紹介させていただきたい。

このしゃんしゃん体操は、高齢者を対象に介護予防、地域のふれあいを目的として始めたもの。鳥取大学医学部の先生と、市立病院の理学療法士と、健康運動指導員に協力いただき、作成した。

「しゃんしゃん祭」と高齢者に「しゃん」と元気でいてほしいと願いを込めたもの。推進にあたっては、平成18年、19年に推進員、指導員を養成し、地元集会所等を使ってPRしている。昨年実績では、約7,000人、延べ17,000人の方にご参加いただいた。

もう一つ、「疾病の早期発見、早期治療」に努めるため、健康審査の制度が変わっており、平成19年度までは、「基本健康診査」と言っていたものが平成20年度から「特定健診」というものになり、40歳から74歳までの方全員に各加入保険の保険者から健診の通知をされることになった。

健診結果に応じて医師、保健士、管理栄養士による運動や、栄養面に関する保健指導が実施される。個別に面接をしたり電話で対応するなどしている。

いままでの健康診査は、結果通知のみであったが、保健指導が充実された点が変更点となっている。

(委員)

今日の部会の総括としては、健康づくりの大切さを市民の皆さんにもっとアピールして、市民のひとりひとりに自身の健康づくりについて考えてもらうという雰囲気醸成をはかるということ。また、後期高齢者、健康診断の受診率の向上、社会保険センターがなくなったことによる機能の補完が他の施設でできているのか、などのご意見をいただいた。

今後の懇話会の流れとしては、8月に部会を実施し、11月に部会と全体会を開催し、まとめという流れになる。

秋の会は、全体会に向けての総括に使える良いものとする。

次回は、そもそもの部会のテーマである、「人口が増加していく住み良いまちづくり」について新しい情報等それぞれ入手いただいて、ご協議いただくということでのいかにか。

では、次回は「人口が増加していく住み良いまちづくり」についてご意見を伺うこととしたい。

本日はありがとうございました。

(終了)